

様式 1

令和 7 年度 小林市立永久津中学校 自己評価書

4 段階評価      4 期待以上      3 ほぼ期待どおり      2 やや期待を下回る      1 改善を要する

学校経営ビジョン		主体的に学び、これからの社会をたくましく生きる生徒の育成				
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知 育	<b>重点目標：</b> <b>主体的な学びによる学力の向上</b>  <b>手段：</b> 1 キャリア教育の視点を意識し夢や目標をもたせる。  2 小中一貫性のある学習指導をすすめ、授業改善を推進する  3 個に応じた指導を充実させ、「分かる」実感をもたせる。  4 英検・漢検へのチャレンジを進める	1について ・外部人材活用35回以上	1について (1)1年生は、こすもす科での農家体験の体験を通し、さまざまな問題への意識高揚に繋げる。 (2)2年生は、職場体験学習を通して、正しい勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の生き方について考えさせ、自己実現を図る取組を行う。 (3)3年生は、高校説明会を実施し、適切な進路選択や進路実現に向けて、キャリア教育の充実に努める。	3.3	4	○各学年において、1年生では農業食育体験、2年生では職場体験、3年生では高校説明会や福祉体験を実施したほか、全校としても地域の協力を得ながら多様な体験活動を行うことができた。これらの体験活動を通して、生徒が自ら考え、主体的に行動しようとする態度が徐々に育まれてきている。また、外部人材を活用した取組を延べ35回以上実施できたことは、学びを学校内にとどめず、社会と結び付ける有効な機会となったといえる。体験を通した学びの系統性や継続性の確保が今後の課題である。
	2について ・全員1回の研究授業実施 ・小中合同の授業研究会の実施	2について (1)目的を意識しながら場面に応じてICTを活用し、「協働的な学び」や「生徒の表現活動」につなげることを通して、授業力の向上(タブレットの活用や話し合い活動の推進)に努める。  (2)小中合同による授業研究会を通して、小中一貫性のある学習指導に努める。	3.5	○市指定の研究公開に向けて、研究授業を行い、市教委や教育事務所の指導主事からのアドバイスを授業改善に努めた。また、小学校と合同研究推進委員会と授業研究会を行い、小中連携を図った。研究公開では、参加した方々から高い評価をいただいた。一方、学習内容や指導方法の系統的な共有に課題が残った。今後は、課題を踏まえ、小中連携をさらに深め、授業改善につなげていく。		
	3について ・生徒へのアンケート回答80%以上	3について (1)生徒の理解度や「つまずき」の把握に努め、職員間で情報を共有し、実態に応じた課題設定と授業を行うとともに、「個に応じた指導」を充実させる。	3.5	○校内外のテスト結果を教科ごとに分析し、その結果を踏まえた個別指導の充実を図った。校外テストにおいては、地区平均を上回る成果が見られ、一定の学習成果が確認できた。一方で、学習内容の理解度には生徒間で差が見られることから、今後は学習状況の把握をより一層丁寧に行い、一人ひとりに応じた個別最適な学びのさらなる充実が課題である。		
	4について ・3級以上合格英検3名以上、漢検8名以上	4について (1)英語科担当を中心に英検受験を推進する。  (2)国語科担当を中心に漢検受験を推進する。	4.0	○本年度の英語検定受検者数は、17名(延べ人数)で、3級以上取得者は3名であった。 ○漢字検定受検者は、35名(延べ人数)で、3級以上の取得者は7名であった。今後も検定受験を推進していく。		

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
徳 育	重点目標： <b>豊かな人間性・主体的に生きる力の育成</b>  手段： 1 道徳や人権教育の充実に努め、いじめ・不登校ゼロを目指す  2 一人一人に寄り添う支援や教育相談の充実に努める。  3 生徒の長所を伸ばし、困難を乗り越えようとする態度を育てる  4 スクールワイドPBSに基づき、自己指導能力を身につけさせる	1、2について ・いじめの解消 <b>100%</b> ・新たな不登校生徒 <b>0</b> ・道徳科の時間実施率 <b>100%</b> ・常時相談と教育相談期間の設定	1、2について (1)生徒指導主事を中心に保護者や関係機関とも連携し、不登校の解消に努める。 (2)道徳の時間の100%実施に努める。 (3)一人一人が大切にされる学校づくりを目指し、職員と生徒の人間関係醸成を図りながら、信頼づくりに努める。	3.5	3	○毎月「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めた。人間関係のトラブルは、学級担任を中心に、全職員で対応にあたった。今後も継続していく。 ○不登校生徒については、ケース会議等を行い、個に応じた対応を行った。改善の兆しも見られる生徒もいる。 ○全職員で道徳の授業に取り組んだ。 ○生徒と保護者のアンケートによると、他人との関わり方が良好という結果であったので、学級や全校での様々な取組の成果であると考ええる。
		3、4について ・生徒会活動や学校行事の生徒主体の活動 ・ボランティア活動の充実・生徒へのアンケート回答 <b>80%</b> 以上	3、4について (1)実行委員会等の指導・支援を通して、生徒一人一人が学校行事やボランティア活動への自発的・主体的行動を促す。 (2)生徒一人一人にあせらずじっくり対応し、自己決定させる場面を多く設定し、発達支持的生徒指導を意識しながら指導を行うように努める。	3.3		○実行委員会等への指導・支援を通して、学校行事やボランティア活動に主体的に取り組む生徒が増え、自分の役割を意識して行動する姿が見られるようになった。今後は消極的な生徒も主体的に関われるよう、役割設定や支援の工夫が必要である。 ○生徒一人一人に丁寧にに関わり、自己決定の機会を設けることで、自分で考え行動しようとする姿勢が育ってきた。時間的制約から十分な対応が難しい場面もあり、自己決定を促す指導について教員間での共通理解を深める必要がある。
体 育	重点目標： <b>健康・安全教育、体力の向上</b>  手段： 1 睡眠の大切さを理解させ7時間以上の睡眠時間の確保を図る。  2 体力向上プランを基に体力向上、競技力の向上を目指す  3 授業開始・終了時の立腰指導を行い正しい姿勢の意識化を図る。	1について ・7時間以上の睡眠 <b>100%</b>	1について (1)アンケートの実施を通して、実態把握に努める。 (2)リーフレット等の配付を通して、家庭でのルール作り、睡眠時間7時間以上確保等の協力を求める。	3.4	4	○健康観察で毎日の睡眠時間の把握に努めた。その結果、睡眠時間の不足や生活リズムの課題が明らかとなり、指導改善に生かすことができた。一方、調査結果を継続的な指導や個別支援につなげる点に課題が残った。 ○保健便りを配付し、家庭に対して睡眠の重要性や7時間以上の睡眠確保、家庭でのルール作りについて呼びかけた。啓発の機会とはなったが、家庭によって取組状況に差が見られる。
		2について ・Tスコア48項目中 <b>35</b> 項目で県平均以上 ・部活動県大会出場	2について (1)体育の授業で体力向上を考えて取り組ませる。 (2)部活動においても、それぞれの運動の特性に応じたトレーニングメニューに取り組み、体力の向上及び競技力の向上を図る。	4.0		○Tスコア48項目中40項目で平均を上回った。昨年度より大幅にアップした。昨年度の反省を踏まえて、体育の授業や部活動等で体力向上に取り組んできた成果であると考えられる。 ○男子バレーボール部が県大会に出場した。
		3について ・立腰定着 <b>100%</b>	3について (1)立腰指導については、各授業の始めと終わり、集会等を通して、常時指導を行う。	3.1		○概ね立腰はできているものの、生徒・保護者とも平均値が2.8にとどまっていることから、姿勢を正す意義が十分に理解されておらず、指導が形式的になりやすいという課題がある。今後は、立腰の目的や効果を具体的に伝えるとともに、児童生徒一人一人の実態に応じた指導を行っていく必要がある。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
食 育	重点目標： <b>健康な身体づくりのための「食」に対する意識の向上</b> 手段： 1 残食0を基本とした給食指導の充実 2 朝食抜きの生徒0を目指し、職についての意識を高める。 3 弁当作りを行わせ、食についての関心をもたせる。	1について ・給食残菜 <b>0</b>	1について (1)給食の残菜ゼロをめざす。	3.6	4	○残菜ゼロは、ほぼ達成できた。
		2について ・朝食をとる生徒 <b>100%</b>	2について (1)朝食に関するアンケートの実施と考察を行い、実態を把握する。 (2)保健だより等を通して、食に関する情報の提供を行う。	3.6		○朝食について、毎日健康観察で確認を行っているが、時々食べていない生徒が見られる。栄養委教諭の講話等も行い、啓発に努めている。今後も本人・保護者に啓発活動を行っていく。
		3について ・弁当の日3回実施	3について (1)「弁当の日」実施について、家庭への協力を求めるとともに、事前の目標設定や計画を行い、確実に実施する。	3.5		○昨年度の5回から3回に実施回数を減らしたことにより、充実して取り組むことができた。
そ の 他	重点目標： <b>保護者や永久津小学校、地域との連携の推進</b> 手段： 1 学校だよりや学級通信の発行により保護者との連絡を密にする 2 学校ホームページの更新により学校の取組をお知らせする 3 小中合同での会議や研修の充実を図る。 4 生徒の主体性や郷土愛を育むため地域の行事への参加を進める。 5 メディアコントロールができる生徒の育成を図る。	1、2について ・学校だより毎月発行 ・学級通信の定期発行 ・ホームページ更新70回	1、2について (1)学校だよりや各担任からの学級通信を定期的に発行し、積極的に外部への情報発信を行う。 (2)ホームページの更新を行う。	3.4	3	○学校だよりや学級通信等の定期的な発行を通して、保護者・地域の理解を深めることができた。教育活動のねらいや成果が伝わる内容を意識するとともに、計画的な発行を行う。 ○ホームページの更新は、70回以上行い、学校の様子や連絡事項を発信し、保護者・地域への情報提供を行うことができた。
		3について ・小学校及び関係機関との連携	3、4について (1)円滑に合同行事を実施するため、小中合同の職員会の充実を図る。 (2)永久津いきいき協議会、永久津校区教育振興会等との連携を通して、生徒の地域行事への積極的参加を促す。	3.3		○小中合同の職員会や研修会を定期的に行うことで、円滑に合同行事を実施することができた。生徒アンケート平均3.5、保護者アンケート平均3.8となっており、高い評価である。 ○球技大会、永久津どんと祭り等に積極的に参加できており、地域での役割を果たそうとする意識は芽生えてきている。
		4について地域 ・行事参加年3回以上	5について (1)保健だよりに関連記事を毎回掲載する。 (2)情報モラル教室を開催し、啓発を行う。	3.3		○保健だよりの記事掲載や、情報モラル教室も2回実施することで啓発を推進した。生徒の意識は高まった。しかし、保護者のアンケート結果は、平均値が2.7となっており、家庭でのスマホ等の扱いに苦慮していると思われる。

次年度の方向性についての校長所見

本年度は小林市指定の研究公開を実施した。公開に向けて、昨年度から授業力向上の取組を全職員で行ってきた。数学と英語の研究授業を実施し、参観した市内の先生方から授業内容と生徒たちの学ぶ姿が素晴らしいとうれしいことばをいただいた。また、生徒の学力高く、学力向上という点では成果を上げることができた。本校の特徴の一つとして、地域と連携した豊富な体験活動が挙げられる。学校だけでできることには限りがあるが、保護者や地域の力を借りて、様々な体験活動を実施することができている。SNSの普及とともに、他者に対する心無い行動が社会問題化している中、他者と協働することや他者を思いやることを体験活動を通して学んでほしい。次年度も学校と地域、保護者で協働し、永久津地区の子どもたちが豊かな人生を送れるように教育活動を進めていきたい。